

環境と経済の好循環  
《 都市型の有害廃棄物処理企業として 》

2005年10月24日

株式会社ハチオウ 森 裕子

## 社員と共に歩んだ35年

社会の問題にメスを入れるが如き思いで、環境問題への純粋な想いをもった学生が少なからず企業訪問してくれたものでした。しかし現実に踏み込んだとき、その思いを受け入れる世の中の構造とのギャップ、会社の未熟さの中で別の世界を求めて去っていきました。

企業に人が育たなければ成り立ちません。  
産業に人が夢を持ってなければ衰退します。  
何を大切にしなければならぬのかを常に追求する人が育ってからこそ、  
明るい企業が育ち会社は活性化します。

21世紀の企業は価値観を基軸にして成長発展する時代となりました。  
今、産・官・学・民の各々の現場から発生する気づきを形にかえて  
「小さな輝き」が沢山生れています。  
それを総合力をもってコーディネートする役割があるように思います。

条件の厳しい小さな国だから  
知恵が豊かな日本人だから  
知・情・意の思想のしっかりした歴史を持っているからこそ、  
世界に発信できる国になれるように思います。

良寛和尚は300年前に詩っています。

**かたみとて 何を残さん 春は花  
夏ほととぎす 秋はもみじ葉**

人の心の原点を大切に更に一歩進めた役割を持って  
**次世代への変革の「場」を創っていきたいものです。**



# 1. 当社の特色

35年の経験は全てが無から有を生み出すものだった。

## 事業内容

昭和47年、貴金属材料の供給会社(リサイクル企業)として発足した。  
廃棄物処理法の制定以後、廃棄物処理会社としての道を歩み、  
東京都内に特別管理産業廃棄物の処理工場を構えている。

## 新卒採用

廃棄物処理に対する社会的認知が低かった昭和50年代  
新卒採用(大卒、高卒)を開始。  
平成4年に初めて新卒の大卒女性を採用し、営業職や工場職に配置した。

## 組織

新卒採用した社員が、現在では取締役や管理職にまで成長した。  
毎年、管理職が参画して経営計画を作成している。  
平成11年、ISO14001認証登録  
順法管理体制と会議体

## 社員教育

環境整備 毎朝30分、全社員で実施  
全体研修 全社員参加の政策勉強会(会社方針の理解とコミュニケーション)  
個別研修 マナーから専門教育まで  
経営計画書 全社員に手帳形式の経営計画書を配布。毎朝の朝礼で方針書を読み合わせ

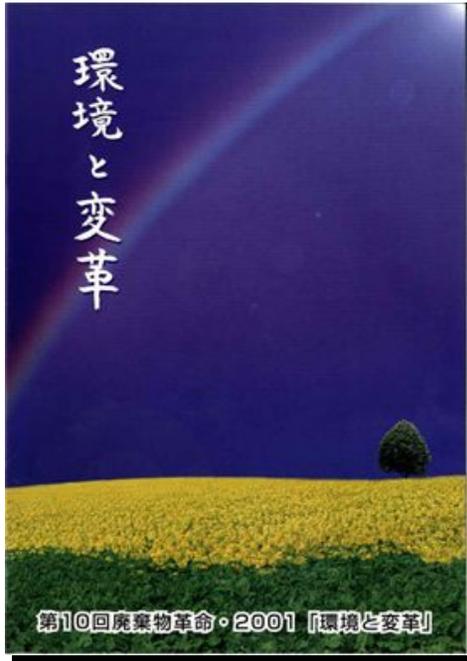
## 情報発信

産廃ジャーナル(クリッピング、) ~時系列で判る環境問題の変化~  
環境シンポジウム ~有識者から学ぶ~  
環境問題研究会 銀の森倶楽部  
環境論文募集 ~産・官・学・民の現場から学ぶ~



次世代を担う若者の育成と、彼らのロマンと誇りなくして業界の成長はない。

# 環境シンポジウム 廃棄物革命・2001



## シンポジウム 産業廃棄物革命・2001 これまでの歩み

- 25 ●●●
- 1993.5月 第1回 貴方の家庭から企業まで**  
 基調講演者 宇井 純氏 (早稲大学 教授)  
 パネラー 佐伯 康治氏 (日本ゼンケン株式会社 専務取締役)  
 村田 徳治氏 (株式会社環境資源研究所 代表取締役 所長)  
 徳野 龍男氏 (大阪府吹田市環境事業部 参事)  
 樋田 敏 氏 (理化学研究所)
  - 1994.6月 第2回 処理コストは減らせるのか?**  
 基調講演者 中西 博子氏 (東京大学 教授) 環境安全センター 所長  
 パネラー 村田 徳治氏 (株式会社環境資源研究所 代表取締役 所長)
  - 195.10月 第3回 廃棄物の変化を知る～今、求められているものは何か?～**  
 基調講演者 斎藤 興弘氏 (環境庁国立環境研究所社会システム部 部長)  
 パネラー 西田 徳久氏 (環境庁水質汚濁対策課 廃棄物対策室 参事)  
 村田 徳治氏 (株式会社環境資源研究所 代表取締役 所長)
  - 196.10月 第4回 あなたの会社は大丈夫ですか?**  
 基調講演者 矢部 浩祥氏 (中央大学 法学部 教授)  
 パネラー 高橋 敏次郎氏 (日経SP社 専務 環境 委員長)
  - 1997.6月 第5回 廃棄物処理 リサイクルの今日的課題とその展望**  
 基調講演者 青山 雄介氏 (株式会社エックス都市研究所 代表取締役)  
 パネラー 宇井 純氏 (早稲大学 教授)  
 大瀧 正夫氏 (経済産業省資源立地局リサイクル推進課 課長)  
 野崎 孝氏 (明治大学経済学部 教授)  
 梶井 隆雄氏 (株式会社環境資源研究所 代表)  
 鳥井 弘之氏 (日本経済新聞社 編集委員)
  - 1998.10月 第6回 環境と経済**  
 基調講演者 小島 邦弘氏 (日本経済新聞社 取締役編集主幹)  
 パネラー 大島一寛氏 (環境企画調査会理事 全国社会連署 副会長)  
 佐藤 博之氏 (財団法人日本環境協会 事務局長)  
 竹内 秀年氏 (三菱電機株式会社 環境 出展部)  
 森 雅裕氏 (株式会社ハチオウ企画室 取締役室長)
  - 1999.10月 第7回 時代の転換期における環境対策**  
 基調講演者 中西 博子氏 (東京国立大学環境科学センター 教授)  
 パネラー 井上 誠一郎氏 (環境省資源立地局環境課 主任)  
 米谷 秀子氏 (環境省環境政策課 主任 環境省環境政策課 主任)  
 小林 淳 氏 (株式会社ハチオウ営業三課 課長)
  - 2000.10月 第8回 環境と通信**  
 基調講演者 藤田 史郎氏 (株式会社NTTデータ 相談役)  
 パネラー 近藤 亮介氏 (伊豆建設株式会社 東京支店)  
 高橋 孝氏 (CIVA株式会社 ハチオウ工場)  
 武井 由起子 氏 (株式会社ハチオウ技術課)
  - 2001.10月 第9回 環境と物流**  
 基調講演者 津久井 英喜氏 (東京理科大学環境知能学 教授)  
 パネラー 河西 健次氏 (株式会社カイザワ)  
 小林 新平氏 (株式会社エフエックスロジスティクス)  
 内田 三知代氏 (物流ジャーナリスト)  
 丸山 健一 氏 (株式会社ハチオウ営業課 課長)
  - 2002.11月 東京産業廃棄物協会女性委員会 企画・実施・協力 安心・安全・信頼の環境づくり 産業廃棄物の新しい社会システム構築のために 全員参加で考える**  
 基調講演者 後藤 俊彦 (環境調査研究会 代表参事)  
 コーディネーター 小島 明 (日本経済新聞 常務取締役)  
 小川 珠江 (株式会社環境推進 室長)  
 石崎 富江 (あすとみどりの会)  
 木村 尊彦 (東京都環境局廃棄物対策 課長)  
 森 尚子 (社団法人東京産業廃棄物協会理事女性委員会 委員長)
  - 2003.10月 第10回 環境と変革**  
 基調講演者 石渡 正佳氏 (千葉県千葉支庁青い環境課 副課長 副主幹)  
 パネラー 小島 明氏 (日本経済新聞社 専務取締役)  
 江口 誠次郎 (環境NGO アジア環境連帯代表)  
 西村 忠明氏 (全日本空輸株式会社地球環境保全推進部 部長)  
 ビーター デイヴィッド ビーターセン氏 (株式会社イースクエア 代表取締役社長)  
 青藤 光男氏 (株式会社ハチオウ総務部 部長)  
 田坂 広氏 (金澤大学 大学助教授)  
 藤田 史郎氏 (株式会社NTTデータ シニアアドバイザー)  
 大瀧 正夫氏 (経済産業省中小企業庁事業環境部 部長)
- 26 ●●●

## 第36期経営計画発表会，政策勉強会，懇親会



4月9日，経営計画発表会  
管理職を対象に今期の経営方針を発表・説明



4月12日，上期政策勉強会  
全社員を集めて今期の経営方針を発表・説明



4月12日，上期政策勉強会の懇親会  
勤続10年以上の社員を表彰



懇親会の司会3人

## 2. 環境ビジネスの開拓者として

### 社員の採用，定着，活性化が主な仕事だった

4人目の子供が産まれたばかりの時，  
主人である現会長の創業時のロマンを聞いて，会社の仕事を手伝うことになった。

営業と工場以外のことが全て私の仕事になった。  
なかでも一番重い問題は，“人”に関する事だった。

昭和58年，創業11年目に初めて新卒採用をおこなった。  
以来，毎年採用活動を継続している。

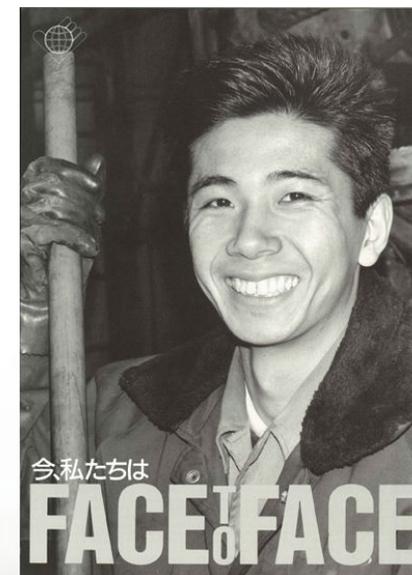
**将来を担う若者が，夢とロマンを持ってない業界は発展がない。**  
彼らが将来を創り上げる力を身に付けなければいけないと強く思うようになった。

15年前，環境の専門学校を創設したいと現会長に提言したが，却下された経緯がある。

社員の元気のために始めた環境シンポジウム，環境問題研究会から  
多くのヒントを得ることができ，ビジネスチャンスともなる。

**環境で身を立てていく夢のある若者に“場”を創っていきたい。**

平成3年当時作成した小冊子  
「今，私たちは FACE TO FACE」



### 3. 環境と経済の好循環を生み出すために(1)

あなたの町に、近隣に、産業廃棄物の処理工場が進出するとしたらどのように対処しますか？

#### 本質的問題

NIMBY 症候群 = Not In My Back Yard (必要なのはわかるけど) 自分の裏庭ではやらないで

#### 小口の有害・化学系廃棄物

「化学系」の廃棄物は、全産業廃棄物の中でも1～数%の発生比率でしかないが、環境負荷は極めて高い。その中でも当社が扱う(処理する)“ 廃棄試薬・薬品 ”，“ 試験・研究時の廃液 ”はその取扱いや処理が難しい。

リサイクルやゼロ・エミッションの時代であるが、

化学系の廃棄物処理に関しては、その廃棄物を持つ有害・危険性を取り除くことが優先される。

有害・化学系廃棄物の処理とは、“ お客様の抱えるリスク ”を肩代わりすることに他ならない。

いわば、“ お客様への 安心、安全 ”の提供である。

社会的使命と同時に NIMBYは重大な課題でもある。



#### ある日、突然のリスク発生

化学物質は毒性や危険性が考慮されたうえで市場に流通しているが、突然の事故や事件で その存在が特異的にクローズアップされる。

最近ではアスベスト...

過去にはBSE問題, 砒素入りカレー事件, アジ化ナトリウム etc

廃棄物処理施設の存在が、社会に“ 安心・安全 ”をもたらせたら...



### 3. 環境と経済の好循環を生み出すために(2)

あなたの町に、近隣に、産業廃棄物の処理工場が進出するとしたらどのように対処しますか？

廃棄物処理会社として思うこと

現場型、男性主体の業界

この仕事だからこそ、女性の英知が活かされる

女性の生活者としての気づきと行動は、  
新しい価値観と今までにないビジネスを創造する。

女性の比率の高い成長性の良い企業のあり方は、  
環境事業においても導入すべきことと考える。

便利な暮らしから生れた化学物質の処理は、  
生活者の視点に近いところに寄せて対策することがリスクを遠ざける。



~~NIMBY = Not In My Back Yard~~

このような環境文化を育てていきたい



## 4. 一歩先を見つめて

アジア全域が世界の経済成長センターといわれる状況にあり、急進的な近代化による工業化、都市化への道を辿る過程で欧米や日本以上に深刻な公害問題を激化させ、資源消費型、環境破壊型の経済社会へと大きく変貌しつつあると言われています。

「躍進するアジア」は、日本が体験した公害と環境破壊の波に呑み込まれていく危険性があります。

環境立国日本としてアジアのリーダーシップをとるために、日本の経験値を分野毎にスキーム化するのはどうでしょうか。

またアジアとのネットワークを進め互いの水位を整えるために教育が必須と思います。

- (1) 環境教育の義務教育化 (現場と理論)
- (2) 環境ビジネスを踏まえた英語教育の強化 (国際力)
- (3) 環境メンターの育成 (人間力) ~ 依存型から自立を促すリーダーシップへ ~